



2015～16 年度
国際ロータリー会長
K. R. ラビンドラン

Weekly Report Niigata



世界へのプレゼントになろう

2015～16 年度 国際ロータリーのテーマ



2015～16 年度
新潟ロータリークラブ会長
竹石 松次

新潟 RC1 月第 2 例会 (2016.1.12) No.3117

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 竹石 松次 会長挨拶

坂口安吾

明治三十九年(1906)～昭和三十年(1955)

新潟市中央区西大畑町に生まれる。父・仁一郎、母はアサ(五泉市本町の地主、吉田久平の次女)、長兄は、坂口献吉(新潟日報・新潟放送社長)。本名は炳五、子供は十三人の十二番目、父の仁一郎は代議士、五峯と号し詩をよくした。この詩人的な気質が安吾の人間形成に大きな影響を与えた。

新津市大安寺から新潟市西大畑町に移し、安吾をはじめ子供の教育にあった。安吾は六歳で幼稚園に入園、八歳で尋常高等小学校に入学したが、学校は余り好きでなく近所の子供たちを集めて餓鬼大将になって遊んだという。

十四歳、新潟県立新潟中学に入学するも「この頃より家に対して憎しみと恐れを感じ、海と空と風の中にふるさと愛を感じていたという」「ふるさとは語ることなし」の石碑が護国神社の境内に立っているが、やがて学校嫌いになり退学処分寸前で、東京の中学三年に編入となった。新潟を去る時に「余は偉大なる落伍者となって、何時の日にか歴史の中に蘇るであろう」と綴っている。

やがて父仁一郎が亡くなると同時に坂口家も困窮し、兄献吉は金策に奔走、安吾もまた苦境に立たされた。この頃安吾は、

「金は欲しいようにやってくるもんだが、なくなつて、一向にこまりやしませんや」といったり、「人間はどのようにブザマに投げ出しても、その人はその人なりに真価を發揮しているものである。」

と自覚していた。

そして、その翌年、今度は東洋大学の印度哲学科に入学、それまでの考えを、精神衰弱となり、極度の神経衰弱をサンスクリット語、パーリー語、チベット語、フランス語、ラテン語を勉強することによって克服しようとした。この特異な行動は安吾の生き方とも大いに関係していることとなり、二十三歳、在籍のままアテネ・フランセに入学しモリエール、ヴォルテール、ボンマッシュの作品を耽溺した。二十五歳で東洋大学を卒業、この頃、求道への模索に焼身し、またある時は発狂の妄想におびえたり、古代語学習に没頭した。

やがて、アテネ・フランセの友人たちを中心に同人雑誌を創刊し、「木枯らしの酒倉から」「ふるさとに寄する賛歌」「風博士」「青い馬」「黒谷村」を発表小説家としての地位を築いていた。

島崎藤村、宇野浩二といった当時の人気作家の推薦を受けて坂口安吾は本格的に文壇デビューを果たした。

食べたいように食べ、飲みたいように飲み、遊びたいように遊んでいた安吾は、その行動や生き方の点においてユニークなものとして理解されている。

作家で生前交友もあった壇一雄は、安吾の精神を支えていたものそれは、「道を楽しむ」という思想であると言っている。「あらゆる生活と思考に、西欧の実質主義をざっくばらんに持ち込みながら、その根本において、淋しい東洋の哲人のおもかげがあった」とも言っている。

新潟屈指の素封家の五男、巨大な家と、巨大な因習がからみついている名門の子弟として誕生したが、十八歳に父仁一郎が亡くなり、大きな支えを失って、そこから安吾の放浪生活が続くこととなった。

昭和二十一年「新潮」に「墮落論」「白痴」を発表、この小説を世にだしたことによって石川淳、太宰治らとともに無頼派作家と称され、戦後の文壇に華々しい作家としての地位を築くことになった。

昭和三十年二月十七日、群馬県桐生市の借家で死去した。五十歳という年齢であった。

代表作には「白痴」「桜の満開の下」「夜長姫と耳男」歴史ものでは「道鏡」「信長」日本文化私観「墮落論」「安吾巷談」「安吾地理」等がある。

「桜の森の満開の下」は、昭和五十年、篠田正浩監督、若山富三郎、岩下志麻出演で映画化されたほか、「白痴」も、平成十一年、手塚真監督、浅野忠信、甲田益也子出演で映画化され、新潟で撮影が行われた。

独り息子の綱男は写真家となり、父のふるさと新潟にも度々足を運び、写真集や生誕百年を記念した「安吾のいる風景」を出版。安吾ゆかりの地を訪ね、写真と思い出の記を綴っている。亡くなった三千代夫人、終焉の地、群馬県桐生、新津市、新潟市が撮影されている。

新潟日報社長、新潟放送の初代社長、坂口献吉は安吾の兄である。

日本海を望む、新潟市護国神社境内の砂丘に「ふるさとは語ることなし」の碑が建っている。

同じふるさに寄する讃歌では、
一夢の総量は空気であったー、
「私は蒼空を見た。蒼空は私に沁みた。
私は瑠璃色の波に噓ぶ。
私は蒼空の中を泳いだ。
そして私は、
もはや透明な波でしかなかった。
私は磯の音を私の脊髄にきいた。
単調なリズムは、
其処から、鈍い蠕動へ撒いた。」

1月26日の例会予定

卓話「地域デビュー

～好きなまちに、あなたの「手」を加えて

ステキなまちへ～」

認定 NPO 法人 新潟 NPO 協会

理事・事務局長 井上基之 氏

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

(3) 同好会報告

・小林 建ゴルフ同好会幹事

1月27日午後6時30分よりゴルフ・野球の合同新年会をイタリア軒5階「ジェノヴァ」の間で開催致します。

(4) 各種ご寄付の発表

米山奨学会寄付

高橋 康隆君

青少年育成基金寄付発表(細野 義彦副幹事)

樋熊 紀雄君

(5) 会員スピーチ「白鳥のふるさと」

(株)BSNウェブ代表取締役社長 近藤 正典君

(6) 1月12日例会の出席率 67.37%

会員数99名(出席免除会員 9名)

出席者64名(出席免除会員5名を含む)

(2週間前は規定休会)